

FTR セミナー 2024

◆開催日時 2024 年 11 月 12 日 (火) 10:30~18:00

◆開催場所 横浜ベイホテル東急 B2 クイーンズグランドボールルーム

タイトル	
9 : 30	受付
10 : 30	開会の挨拶
10 : 40	【基調講演】国立研究開発法人海洋研究開発機構 付加価値情報創生部門 部門長 堀 宗朗 様
11 : 20	【ユーザー講演 1】東日本旅客鉄道株式会社 電気システムインテグレーションオフィス 新宿電気システム工事区 電車線科長 猿田 裕司 様
12 : 00	昼休憩
13 : 00	【FTR 講演 1】常務取締役 技術本部長 高橋 久範
13 : 40	【ユーザー講演 2】東京電力ホールディングス株式会社 福島第一原子力発電所 汚染水対策プログラム部 汚染水処理 PJ グループ チームリーダー 尾木 洋介 様
14 : 20	【ユーザー講演 3】JFE ブラントエンジニア株式会社 東日本事業所 京浜保全センター 東日本メンテナンス部 メンテナンス工事室 古木 洋輔 様
15 : 00	コーヒープレイク（展示会場にもお立ち寄りください）
15 : 20	【FTR 講演 2】取締役 営業本部長 北村 友一
16 : 00	【ユーザー講演 4】パナソニック コネクト株式会社 モノづくりイノベーション本部 現場力強化推進部 ソリューション技術課 アシスタントマネージャー 辻田 和真 様
16 : 40	【FTR 講演 3】執行役員 先端技術開発部 部長 永洞 和宏
17 : 10	閉会の挨拶
17 : 20	展示エリア
18 : 00	懇親会

※講演のタイトル及び内容は予告なく変更される場合がございますので、予めご承知おきください。

※懇親会場は【横浜ベイホテル東急 B2 クイーンズグランドボールルーム】となっております。お気軽にご参加ください。

お問い合わせ 株式会社富士テクニカルリサーチ

セミナー担当：柴田

TEL : 045-650-6650 (代表) Email : seminar@ftr.co.jp

▽基調講演

国立研究開発法人海洋研究開発機構 付加価値情報創生部門 部門長
堀 宗朗 様

<主なる業務歴>

2001～2019 東京大学地震研究所教授
2012～2019 東京大学巨大地震津波災害予測研究センター長
2012～2017 理化学研究所計算科学研究機構ユニットリーダー
2017～2023 内閣府 SIP プログラムディレクタ
2019～ 現職

『防災のための都市のデジタルツイン』

自然災害に対するレジリエンス強化が必要とされている。第一歩は、様々な災害シナリオを考慮した高度なシミュレーションによる詳細な被害の明示である。上記を背景に、都市のデジタルツインを使う高度な災害シミュレーションが研究開発されている。地震の場合、都市丸ごとモデル化し、地震、揺れ、経済復旧等の全過程のシミュレーションを行う。スーパーコンピュータを使う高度な数値解析技術が利用される。また、都市丸ごとのモデルも手作業無しで自動構築される。

本講演は、デジタルツインを使う災害シミュレーションの現状を俯瞰し、防災も含めた都市のデジタルツインの将来を展望する。

▽ユーザー講演 1

東日本旅客鉄道株式会社 電気システムインテグレーションオフィス
新宿電気システム工事区 電車線科長
猿田 裕司 様

<主なる業務歴>

2010年 : 入社 電車線設備の監督・設計業務を担当
2018年～: 電車線設備の基準・審査業務、技術開発等を担当（点群の取組み開始）
2020年～: 電力プロジェクト工事の工事計画・予算管理業務
2022年～: 現職 電車線設備の監督業務

『鉄道の電気部門における点群の取組みと Railway-Eye に関して』

講演要旨 300 字程度

JR 東日本では、鉄道の安全・安定輸送の更なる向上と労働人口減少を見据えた業務改革の一環として DX を推進している。その一環として、鉄道の電気部門において、点群や 3D、BIM モデルの活用に関する取組みを実施している。

2018 年より、これらの活用方法の検討について FTR 社と共に取り組んできた。FTR 社と共同で開発を行ってきた「Railway-Eye」についても、これまで様々な機能の開発を実施しており、2022 年 6 月発売から 2 年が経った今年、2024 年 7 月に機能追加のバージョンアップを行った。

今回は、開発から現在までの Railway-Eye に関する取組みと開発した機能の紹介、社内における種々の取組みと課題、今後の展望等に関して紹介を行う。

▽ユーザー講演 2

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一原子力発電所
汚染水対策プログラム部 汚染水処理PJグループ チームリーダー
尾木 洋介 様

<主なる業務歴>

2009～ 福島第一原子力発電所（原子炉設備の保全等）
2012～ 柏崎刈羽原子力発電所（放射性廃棄物処理設備の保全等）
2014～ 本社（柏崎刈羽原子力発電所の許認可対応業務等）
2020～ KK6 安全対策共同事業株式会社出向
（柏崎刈羽原子力発電所の認可対応業務等）
2024（現在） 福島第一原子力発電所（汚染水処理に係るプロジェクト業務等）

『原子力規制対応への Galaxy-Eye Connect の活用』

福島第一原子力発電所の事故以降、原子力に対する規制及び検査制度の見直しが行われ、事業者はこれら見直し後の制度に対する認可対応等の取り組みを行っている。
認可対応等において、膨大な資料、データの情報整理・管理・保管を要するため、様々な種類のデータ連携を得意とする Galaxy-Eye Connect を活用したデータベースの構築を行った。また、その他、認可対応等にて作成する資料に対し自然言語処理機能を有したシステムによる一貫性のある確認プロセスの検討を行っており、これらの取り組みについて御紹介させて頂くものとなる。

▽ユーザー講演 3

JFEプラントエンジニア株式会社 東日本事業所 京浜保全センター
東日本メンテナンス部 メンテナンス工事室
古木 洋輔 様

<主なる業務歴>

2007～ JFE東日本製鉄所（京浜地区）製鋼設備改造・更新に担当
2010～ 風力発電事業における特殊補修（オンサイトリペア）技術員として従事
2013～ 京浜地区の化学プラント常駐保全プロジェクトスタッフとして従事
2015～ 京浜近郊の石油化学プラント向け設備新設・更新・改造・補修を担当

『外部拡販へ向けて自社内業務改善』

当社はJFE-S殿の機能分担会社としての側面を持ち、長年に亘り製鉄所内の設備保全・建設に携わってきました。昨今の情勢により製鉄所外部の顧客へサービス展開を推進しております。

当社のコアコンピタンスは、総合エンジニアリング事業と設備メンテナンス事業であり、工事管理には様々な形式の資料・ドキュメントを用います。この業務を進める下準備として発生する調査・確認等に非常に多くの時間を費やしていました。

設備を対象にデータベース化された情報を保全業務だけでなく、建設工事の段階から適用していくことで、工事と現場管理の省力化の事例をご紹介します。

▽ユーザー講演 4

パナソニック コネクト株式会社 モノづくりイノベーション本部
現場力強化推進部 ソリューション技術課 アシスタントマネージャー
辻田 和真 様

<主なる業務歴>

入社以来、一貫してモノづくり関係の業務に従事

2012 年入社から生産設備における工法開発を担当、そこで培ってきた知見をベースに現在はシミュレーション技術を軸とし、モノづくり現場におけるカイゼンソリューションの開発・実証をしている

『パナソニック コネクトにおける 3D 計測を活用した現場カイゼンの取り組み紹介』

パナソニック コネクトのモノづくり部門では、ハードウェアの先鋭化による競争力強化とお客様への提供を視野に入れたソリューション創出を社内のモノづくり現場における開発・実証を通じて取り組んでいる。モノづくり現場において、新製品導入やデマンド対応等による工程設計変更や、積極的なカイゼン活動により頻繁なレイアウト変更がある工程では図面更新が追いつかず、現場実態と図面の不整合により次の検討時に課題が発生する場合があった。そこで、3D レーザー計測システムを導入により、検討漏れを未然に防止することができた。更に、レイアウト変更前後の動画を作成し現場作業の方々に共有することで理解度を向上させ、現場の意見を反映することができた。これら取り組み事例を紹介する。